



2026年4月24日

各 位

会 社 名 KOA株式会社
代表者名 代表取締役 社長執行役員 向 山 浩 正
(コード：6999 東証プライム市場・名証プレミアム市場)
問合せ先 経営管理「シティア」総務センター「ネラルマネージャー」
藤 原 齊
(電話番号 0265-70-7171)

当社取締役会の実効性評価結果の概要に関するお知らせ

当社は、「株主様、お客様・お取引先様、地域社会、社員・家族、地球という KOA を支えていただいている『5つの主体』との間に強い信頼関係を構築する」ことを企業の使命としつつ、ROIC 経営を軸とした利益成長と資本効率の向上により企業価値の向上に取り組んでおります。また、取締役会が経営の監督機能及び意思決定機能を適切に発揮しているかを継続的に検証し、その実効性の向上を図ることが重要であると認識しております。

この認識のもと、当社取締役会の運営状況及び機能の発揮状況について分析・評価を実施いたしましたので、その結果の概要を下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2025 年度の実効性評価の実施方法

実効性評価の方法は、以下のとおりであります。この評価方法に基づく結果により現状分析を行い、今後の取組みを検討いたしました。

(1) 評価対象者

全取締役

(2) 評価方法

選択回答式と自由回答式を併用した自己評価アンケートを配付し、記名式で回答を得る。

(3) 評価項目

取締役会の構成・取締役の共通認識、事務局運営・情報提供、議案、審議、指名・報酬、ステークホルダーの意見の検討・反映、内部統制、役員トレーニングに関する事項

(4) 分析・評価及び開示内容の決定

2026 年 4 月 24 日開催の取締役会においてアンケート結果について分析・評価、課題認識のうえ、開示内容を決議した。

2. 2024 年度の実効性評価（前回評価）に基づく課題への取り組み

(1) 取締役会の構成・取締役の共通認識

執行役員制の導入に伴い、出席者を取締役、監査役等に限定した結果、取締役会の役割がより明確になりました。その結果、各取締役の発言機会が増え議論環境の改善が進んでおります。

業務執行取締役が取締役会の中でその職責を果たし、業務執行体制との関係の中で取締役会本来の機能が強化されました。

(2) 議案

短中期経営課題と中長期経営課題という観点において、より中長期的経営課題の議論比率が高まり、戦略的議案の継続的な議論が行われております。議論においては、これまでのような、

前例踏襲型の発想に偏ることなく各取締役の経験、見識をベースにした新鮮かつ積極的な意見が出されております。

取締役会では、その議案の提案説明をベースに、提案に対する質疑応答、各取締役からの活発な意見表明等質の高い会議になっております。また、事前資料共有の定着により戦略的議案が増え、ROIC 経営の浸透を通じて投資案件の検討内容も改善し、議論の質の向上につながっております。

(3) ステークホルダーの意見の検討・反映

「資本コストや株価を意識した経営」に向け、ROIC の考え方の浸透が進み、株主からの意見や質問を取締役会へ報告する運用を開始しました。一方、投資家との対話の共有やステークホルダーの意見把握については、引き続き課題として認識しております。

3. 2025 年度の実効性評価の結果及び課題認識

2025 年度を取締役会の実効性評価の結果、当社の取締役会の実効性は確保されていることを確認したうえで、更なるコーポレートガバナンスの向上のため、以下を課題として認識いたしました。これらについて十分な検討を行い、引き続き取締役会の実効性向上に取り組んでまいります。

- (1) 社外取締役及び女性取締役比率の向上を含む取締役会の多様化と専門性の拡充を進め、資本コストを踏まえた中長期経営戦略とその下での戦術の議論をさらに深化させる必要がある。
- (2) 経営戦略に関する集中審議を通じて経営者視点での議論を深めるとともに、戦略議案の審議の質を高め、投資案件については、経営戦略に基づき財務・法務等による検証が確実に行われているかにつき、取締役会での監督をさらに強化すべきである。
- (3) 株主に加え、社員、顧客、地域社会及び地球環境との対話を深め、機関投資家の意向を的確に把握するとともに、顧客満足度調査結果を踏まえた PDCA を機能させ、企業価値向上に資する意思決定に反映する必要がある。

以 上